

研究課題名：

ヒト肺における滞在型メモリーTリンパ球形成・集積部位の検討

研究概要：

滞在型メモリーTリンパ球はヒトの感染防御などに対する免疫反応で重要な役割をもつリンパ球の最終活性化細胞であり、末梢組織に滞在する特徴をもつ。そのヒト肺での分布についてはいまだ知見がなく、その解明をめざすことが本研究の目的である。

本研究は非侵襲型観察研究であり（患者へのあらたな負担なし）、後ろ向き研究である。

ゲノム解析は含まれていない。

研究機関・研究者：

近畿大学医学部免疫学教室 宮澤正顕（教授） 2023.4.1より（株）新日本科学・TR
カンパニーTR事業部 経鼻粘膜ワクチン研究開発センター・センター長

水戸済生会総合病院 病理診断科 大谷明夫（顧問医師）

水戸済生会総合病院 呼吸器外科 倉持雅己（部長医師）

研究対象：

水戸済生会総合病院にて2020.1.1から2022.10.1までの間において、外科的肺切除をうけた患者の肺検体が対象となる。患者への新たな負担は存在しない。

研究方法：

上記の原疾患のない肺部位の保管されている病理標本（これは長期保存が義務づけられている）をもちいて、免疫染色をおこない、滞在型メモリーTリンパ球を同定し、肺内の分布を調べる。とくに臨床的に問題とならないレベルの肺の炎症病変との関連を病的に調べる。（この染色は水戸済生会総合病院で実施する。解析は研究者全員で行われる）

対象患者の個人情報保護について：

研究対象検体はすべて匿名化されて研究に用いる。研究成果を専門学会・専門誌に発表する場合は、患者の個人情報は完全に保護される。

本研究への問い合わせ先：

水戸済生会総合病院・病理診断科・顧問医師 おおたにはるお 大谷明夫